

「国語教育研究 I」の授業の検討

国語教育講座 中西 淳

1. 授業の概要

本授業の特徴は、国語教育の問題点を踏まえた上で授業を構想することができるようになるための基礎力を育成するところにある。目標及び具体的な到達目標は以下の通りである。

<目標>

○国語教育の主要論文・実践や教科書を取り上げながら、国語教育のあり方について考究することができる。

<具体的な到達目標>

○自らの問題意識に即しながら国語科教育に関する主要論文を探し出すことができる。

○論文を批判的視点を持つて的確に読むことができる。

○自らの国語教育観を深めることができる。

これらは、教育学部 DP の以下の二点に該当する。

○自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。(関心・意欲)

○教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。(思考・判断)

2. 授業の展開

授業の展開は以下の通りである。

- ① はじめに—授業のオリエンテーション—
- ② メタ認知能力とは
—学び方を学ぶ—
- ③ 学習指導要領(国語の目標)の変遷
—新学習指導要領と旧との比較を通して—
- ④ 自分が受けた授業を振り返る
—問題意識の立ち上げ—
- ⑤ 国語学力とは何か
—高・大接続問題より—
- ⑥ 国語教育における現代的課題
- ⑦ 国語教育と道德教育
—夕焼け論争を通して—
- ⑧ 学習者の表現を捉える(1)
—発達を視点として—

⑨ 学習者の表現を捉える(2)

—ジャンルを視点として—

⑩ 教材の表現を捉える

—教材分析の視点—

⑪ PISA 型読解力の検討

—従来の読解力と比較して—

⑫ 作文指導のあり方

—赤ペンの入れ方 1—

⑬ 作文指導のあり方

—赤ペンの入れ方 2—

⑭ まとめ(1)

⑮ まとめ(2)

⑯ 試験(レポート作成)

受講生は13名である。

3. 授業の工夫点と留意点

本授業は、これまでと同様に学習者の問題意識に即して授業内容を決定していった。前年度、学習者に行ったアンケート結果や学習者が提出したレポートの分析から、その展開が学習効果を上げることが明らかになったからである。この点が本授業の最も大きな工夫点である。

結果的に本年度の授業内容は、昨年度のそれと重なる点が多く出てきた。「問題意識の立ち上げ」において昨年度のそれとそれほど差がなかったからである。

ただし今回は、「作文指導における赤ペンの入れ方」に関する内容を新たに取り入れた。それは国語科教育において重要な内容である。かつてそれに関する授業は学部において行われていた。しかし、近年はそれが行われなくなった。欠かすことができない内容だと考え、それを取り入れた。また、今日的課題となっている「高大接続問題」の内容も新たに取り入れた。時勢を捉える力は国語科教育を豊かに展開するためには必要と考えたからである。

授業にあたっては学習者の学習状況を把握しながら、次のことに留意した。

① 批判的視点の育成

学習指導要領の解釈において、学習者は一般

的に『学習指導要領解説』などに頼りがちである。それらに頼るのではなく、自分で考えてどのような特徴があるのか捉えることができるよう、批判的視点の形成を図った。

② 協議力の育成

学校現場では、授業の協議力が問われる。授業は基本的にディスカッション形式をとった。発言の受け方、質問の仕方等に関する具体的な支援を行うことによってその力の育成を図った。

③ 読解力の育成

論文を読む力は、「成長する教師」となるために必要である。授業において国語科教育に関する論文を提示し、いかに読んでいけばよいのかその指導を行った。

4. 授業外学習について

必要に応じて事前学習として課題を出し、それに考えてくるよう指示を出した。3年次後期に開かれる国語科教育法Ⅳ（授業外学習）を念頭に置いてのことである。

5. 授業のアンケート結果

授業後に授業方法（受講生の問題意識をうけて授業を構想し展開するやり方）に関するアンケートを行った。以下、受講生のその記述をいくつか挙げる。

- 私たちが知りたい、勉強したいと思ったことを深めていくことができた授業であったので、毎回集中して取り組めた。解決するだけでなく、より深めることができたことはとても自分にとって良い経験となった。他の人の問題意識も全体で共有することができたのもよかった。欲をいえば、前年度あるいは過去にあがった問題の中で重要であるものを取り上げて行っていく授業も受けてみたいと感じた。時間的に難しいかも知れませんが…。
- 私は有意義な学習であったと考える。課題になった問いから進めるということで、身近な話題について触れてくださったと考える。
- 課題を見つける能力というのは大切なことであると感じた、そのためこの授業のように自分たちで見つけた課題を授業で扱っていただけたのは興味や関心が持てたように思える。
- 私たちが抱えている問題に即して授業を行ってもらうことで、とても現実味があり充実した授業内容であった。広く浅くといった授業内容であったかもしれないが自分たちの問題

提起につながり、そこから自分で学習していたので、私自身のためになった。15回という制限があるため、難しいがより多くの問題と接し、自分の中での問題提起につなげたいという気持ちもある。

- 問題意識に即して行われる今回のやり方の方が、実践的というか、現場でも問題として立ち上がっているような事について考えを深めることができよかったですと思う。PISA型読解力しかり、高・大接続問題しかり、タイムリーなことも考えられたので。
- 授業者の問題意識に即した展開はとても良いと思います。自分の問いに関して授業で考えることができたと思います。
- 初期の段階で国語の問題や質問をピックアップしその中から内容を深めていくという授業形式だったのでより私たちのニーズにあった授業を受けることができたと思います。よかったです。
- 問題意識から授業を展開する方法は非常によかったです。自分たちのなかにある問題意識をまず持つことも必要だと思ったし、思った問題意識からそれについてみんなで意見を述べ合ったり考えたり知ることができたりしたので、将来について具体的なイメージを持ちながら授業に取り組むことができた。ただ、私たちの中で問題とされていないが、今の私たちの状況に必要なものであれば、取り扱って欲しいと思いました。
- 気になっていたことについて改めて考える良い機会になったと思う。
なお、これから学んでいきたいこととして、「海外における国語教育や世界における国語教育について話が聞きたかったなと思います。」「初等-中等-高等のつながりのある学習について」などの記述が見られた。

6. まとめ

アンケートを見る限り、問題意識に即して授業内容を構成していくという展開に対する評価は高いといえよう。これまでと同様の結果であったといえる。

また、レポートの内容も充実したものであった。国語教育のあり方に関する考究的態度が育成されている様子も伺えた。

授業の工夫の効果はあったように思われる。